25年度の実態調査について

1 25年度実施スケジュール（案）

A調査については、水温が最も上がる8月を目処に実施をする。

B調査については、8月までに概ね3回程度実施する。

項目	実施場所	25年度									
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1 A調査						委託					
2 B調査	県有廃寮施設 受水槽	★ 清掃	↔	↔		委託					
	水質センター 実験用受水槽 (福増浄水場実験用)		↔	↔		委託					

図. 1 実施スケジュール（案）

2 A調査について

現在、実施中の冬期調査において、一部測定精度に問題が発生している。

このため、25年度の実態調査については、冬期調査の9箇所を基本として、問題がある調査対象を除外する方向で検討する。

○小容量の受水槽

受水槽内の残留塩素濃度の変化が激しく、連続測定装置が対応しきれない。

○地下式受水槽で、揚水ポンプに連続測定装置を接続している箇所

ポンプ起動時にエア抜き管から排水される水を利用して測定しようとしたが、校正が困難であり、また、連続測定装置が残留塩素濃度の急激な変化に対応しきれない。

3 B調査について

25年度の実態調査については、障害が発生している幕張庁舎の受水槽を除外し、残りの2箇所で行う。

4 今後の方向性

(1) 解析方法

現在実施中の冬期調査及び今後実施予定の夏期調査については、「水質由来減少速度係数(kb)」のモデル推定式した解析を進め、浄水場のTOC濃度と浄水場からの到達時間による受水槽内の塩素消費量の推定を試みる。

(2) 受水槽以降の塩素消費量の設定について

今回の調査は、受水槽内の塩素消費量に的を絞っているが、最終的に受水槽の最低流入残留塩素濃度を設定するためには、受水槽以降の高置水槽や配管での塩素消費量を考慮する必要がある。

これについては、以下の対応を検討する。

①これまで使用してきた過去の文献の受水槽以下の塩素消費量を使用。

(配管・高置水槽の塩素消費量=0.13mg/L)

②先行して調査されている他事業体のデータを使用する。

(配管・高置水槽の塩素消費量=0.05mg/L)